



新企画

コルテス 伊藤の 我が音楽人生

第1回 音楽があったから!

先生方こんにちは。今回よりジャズを中心としながらも、多方面の音楽にわたり独断と偏見に満ちた話をお届けしたいと思います。よろしければ、お付き合いください。

今、この文章を書きながら聴いているのはフランク・シナトラ。1957年のキャピトル盤です。上手いなあシナトラは。SOMEONE TO WATCH OVER ME。

私は幼い頃、母の実家で過ごしていました。両親共に教員なので迎えに来る夕方まで離れの小屋で一人遊びをしていたのですが、見渡すと黒い分厚い円盤と異様な木箱が目に入り、恐る恐るふたを開けるとグニヤと曲がった金属の先に尖った針が？ 流石に操作はできませんでしたが(笑)。しかし、数日後に叔父さんがそれを使ってくれた時には、子どもながらに興奮をした記憶が今でも蘇ります。確か浪曲とか軍歌の類だったと思いますが、私にとって初めて自分で操作する音楽との出会いでした。SP盤というものでしたが、今でもコレクターはいるようです。

時は過ぎて、小学生の頃は加山雄三、姉の影響で洋楽も45回転のドーナツ盤を姉に内緒でいじりはじめ、見つかった時にはよく殴られました(笑)。そのくらい大事にしていたようです。ベンチャーズ、クリフリチャード、アダモなどを父親のコンソール型のステレオ装置で勝手に聴いて、これまたよく父親には怒られました。当時の家庭では家電は高級品で多分、世の父親方は子どもにテレビのチャンネルも触らせなかったようです。父親は村田英雄、美空ひばり、小林 旭、こまどり姉妹なんかが好きなようでした。

中学に入ると夜中の深夜放送などを、ふとんの中にもぐりこんで聴いておりました。11時は中学生の私にとっては未知の時間。わくわくしながら色々な音楽に出会ったのもこの頃です。思いつくアーティストはアニマルズ、ビートルズ、ローリングストーンズなどのロック系の音楽、エンニオモリコーネ、マントバーニオーケストラなどのストリングスやマカロニウエスタンのサウンドトラック、日本のGS、アングラフォーク、あらゆる音楽との出会いは衝撃でした。

また私にとって今でも心に残る曲が沢山ありますが一部御紹介させていただきます。(ベスト10ではありませんが) この時期のものです。

- ・夜明けのスカット(由紀さおり)
- ・花の首飾り(タイガース)
- ・魅惑の宵(マントバーニオーケストラ)
- ・さすらいの口笛(エンニオモリコーネオーケストラ)
- ・花のサンフランシスコ(スコットマッケンジー)
- ・あなただけを(ジェフアーソンエアプレーン)
- ・高鳴る心(ヤングラスカルズ)
- ・サマーワイン(ナンシーシナトラ)

きりがないので、この辺でやめますが、私にとっては今でも大切な曲になっています。

当時はレコード屋さんに行くのとレコードマンスリーなるその月に発売されるレコードを紹介する小冊子があり、金額は50円と書いてはありましたが無償でいただいております。その頃にセロニアスモンクが表紙の号がありまして、その表紙のインパクトがあまりにも強く、ジャズって一体? なんて思っておりました。そのレコードジャケットは後にボブ・ディランがベースメントテープ(邦題は地下室)としてジャケットをリメイクして使っておりますので、ご存じの方もいらっしゃるのでは。

ジャズのレコードは四重奏団、五重奏団なんて書かれていまして。例えば、マイルスデイビス五重奏団とかね、何だか仰々しいなとも思っておりました。

そんなこんなで、これから50年後にまさかジャズという音楽を生業にするとは思いませんでしたが。

しかし、音楽はいいですね。自分の人生において音楽中心の生活は当たり前でした。山あり谷ありの人生でしたがなんとかこられたのも、音楽があったからかもしれませんね。

それでは、第二回GS、フォーク、ロックそして深夜放送まで。

(ひたちなか市・伊藤歯科医院 伊藤輝彦)

